

## 2015年3月期第1四半期決算 電話会議Q&A要旨

日本水産株式会社  
経営企画IR室  
広報IR課

- Q. 南米のSAについて、IFRSの在池魚評価は第1四半期は3月末に行い、第2四半期は6月末に行うということなのか。それとも第1四半期の決算発表時点では海外は6月までの状況がわかっているため、第1四半期は6月末まで織り込んで評価損益を確定するのか。
- A. 海外子会社の決算は1月~12月となっており、在池魚の評価は四半期末毎に行っているため、毎四半期毎に洗い替えしている。したがって、今期の第1四半期決算は3月末の時点での在池魚を評価しており、6月までの評価は織り込んでいない。6月の評価については、第2四半期決算の際に評価損益を確定することになる。
- Q. 国内（ニッスイ個別）は原料高ということだが、コストアップへの対応策の実績状況と今後の見通しはどうか？
- A. 今年度の計画では為替を1ドル=108円で計算しており、為替の影響による原料高に対しては、値上げやコスト削減に取り組んでいく旨前期決算説明会で説明した。現時点での足元の状況は108円レベルの円安にはなっておらず、一方で全部ではないが為替予約を入れているので、予約済分については輸入原価を抑えられている。ただし、すべてをカバーし切れているわけではないので、練り製品ではすりみの原価アップもあるので、値上げをお願いしている。
- Q. 北米（ユニシー、ゴートンズ、K&P）とヨーロッパ（シテマリン）は第1四半期は好調だったが、第2四半期の見通しはどうか？
- A. 北米の水産については、助子の卵率が昨年は低かったが今年は順調であり、計画並みに推移している。北米の食品については、昨年は新商品の不調があったが、今年はコア商品に集中しており順調に推移している。また、レストランチェーン向けの販売も順調に推移している。  
ヨーロッパについては生産設備の増強もあり、順調に推移しており、現時点で問題になるようなことは生じていない。

Q. ブリストル湾で鮭が豊漁であるとの報道があるが、市況の状況と見通しについて教えてほしい。

A. 国際商品である鮭は主に、天然のベニザケ、養殖のトラウト、養殖のギンザケがマーケットに流れている。アラスカのブリストル湾でとれるベニザケが予想の150%を超えて漁獲されたため、魚価がやや下がった。天然のベニザケはロシアのカムチャッカとカナダのフレーザーリバーも漁獲量が多くなる可能性のある場所であるが、まだ最終の漁獲量は確定していない。特にカナダのフレーザーリバーについては4年に一度の大豊漁年と言われており、ロシアの状況と合わせて様子を見ている。

Q. 海外の1~6月の状況はどうなっているのか。評価益を考慮しないとすれば、第1四半期よりも増益となっているのか。

A. 数字は未確定だが、昨年のように第2四半期で突然大きな減益が出るような状態にはなっていない。北米についても昨年の不調から戻ってきていると見ている。

Q. ニッスイ個別の減益要因は何か。ファインの減益要因は何か。  
ニッスイ個別では、食品事業で若干の減益となったが影響が大きかったのはファインケミカル事業の減益である。ファインケミカル事業では薬価改定の影響により、売上・粗利ともに減少した。

Q. B/Sを見ると在庫が減っているが、在庫コントロールは今後どのように進めていくのか。

A. 在庫については、数量は前年同期比で減少しているが、魚価が上がっている分だけ在庫の評価額としては前年並み程度になっている。魚価が上がった分数量は落としているのでシビアに在庫コントロールは行っている。ただし、魚価が高いことで仕入れ金額も高くなっていることから粗利率は落ちてきており、これをカバーするため在庫の回転率を上げるように努めている。

以上